

教科名	現代の国語	2単位
第1学年	特進Gコース	

1. 授業の目標

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
- (4) 模擬試験における平均偏差値55以上を目標とし、達成に向けた努力を日々の授業で実践する。

2. 授業内容

- (1) 論理的な文章について、文章の構成や展開に注意して筆者の論の進め方や強調点をとらえ、要約したり詳述したりする力を養う。
- (2) 「言語文化」の内容の指導の連携を図り、【知識及び技能】の定着を図る。
- (3) 副教材「チャレンジ常用漢字」を用いて、実態に即した合格点を設定しながら小テストを実施し、基礎的な語彙力の定着を図る。
- (4) 副教材「カラー版新国語便覧」を使うことによって、作品の背景に迫り多角的な読解を目指す。

3. 成績評価

前期・後期の評価は、中間考査・期末考査・小テストなどの結果、問題演習への取り組み方、授業中における発表・話し合いなどの参加状況、夏・冬の長期休業中の課題、提出物の状況などを統合して、総合的に判断する。年間の評価は、前期・後期の成績を統合して行い、さらに下記の観点を加えるものとする。

- ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにできたか。

【知識及び技能】

- ・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題、題材を決め、様々な観点から情報を収集し、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味し、伝えたいことを明確にできたか。また自分の考えが明確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考え、文章の種類や文体などの表現の仕方を工夫し、読み手からの助言を踏まえて特長を捉え直すことができたか。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・目的や課題に応じて様々な情報を収集活用して、進んで表現することができたか。【主体的に学習に取り組む態度】

4. 使用教科書

教科書	東京書籍 「精選現代の国語」
副教材	東京書籍 「精選現代の国語 学習課題ノート」
	第一学習社 「新版六訂 カラー版新国語便覧」
	第一学習社 「新版チャレンジ常用漢字 漢検級別対応」

5. 小テスト・演習実施計画 「チャレンジ常用漢字 漢検級別対応」前期3回、後期3回

	4,5月	6,7月	8,9月	10,11月	12,1月	2,3月
範囲	3級	3級	3級	準2級	準2級	準2級
	P46～53	P54～61	P62～69	P70～77	P78～85	P86～97

6. 探求学習

自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方や物の考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。※全コース共通夏季休業課題：「読書体験記」

7. 年間学習計画

月	授 業 内 容	備 考
4	オリエンテーション 一 自己と他者 「届く言葉」 内田 樹 「評論の読み方」 「分かりやすい説明をする」	「チャレンジ常用漢字」小テストは進度やクラスの状況に応じて、適宜実施する。 また漢字検定は6月、10月、2月 年3回を本校で実施しており、継続的な漢字学習を通して、検定に挑戦させたい。 ＜読書体験記指導＞に関わらず、年間を通じて生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めさせるため、翻訳の文章や古典における論理的な文章、または文学的な文章など、複数の文章を読み比べ、それらを論じたり、批評できるようにする。 また関心をもった事柄について様々な文章を調べ、その成果を発表したり報告書や短い論文などにまとめたりする活動も実施する。
5	前期中間考査	
6	二 認識を深める「水の東西」 山崎 正和 前期期末考査	
7	三 言葉と社会「時間と自由の関係について」 内山 節 ＜読書体験記指導＞ 【夏季休業】	
8	「新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる」	
9	四 共に生きる「真の自立とは」 鷲田 清一 「文章を読み比べるために」	
10	付録1 「生物の多様性とは何か」 福岡 伸一 「異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く」	
11	五 世界を広げる「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」 松田 雄馬 「論証してレポートを書く」	
12	後期中間考査	
1	付録1 「少女たちの『ひろしま』」 梯 久美子 【冬季休業】	
2	付録1 「機械は言葉を理解できるのか」 川添 愛 言語文化・現代文編五 作品を読み比べる 「桜に関する作品を読み比べる」	
3	学年末考査 言語文化・漢文編五 思想 「論語」の注釈を読む	

国語科	言語文化	3単位
第1学年	特進Gコース	

1. 授業の目標

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、わが国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
- (4) 模擬試験で偏差値55以上の成績を収めることができる実力を養成する。

2. 授業内容

- (1) 小説や古文・漢文について、文章に描かれた人物・情景・心情などを表現に即して読み味わう。
- (2) 古典読解のポイントとなる文語のきまり、漢文読解のポイントとなる訓読のきまりを身につける。
- (3) 「現代の国語」の内容の指導の連携を図り、【知識及び技能】の定着を図る。
- (4) 副教材「カラー版 新国語便覧」を用いて、作者や作品の背景に迫り、多角的な読解を目指す。
- (5) 副教材「読んで見て覚える 重要古文単語315」を用いて、全10回の小テストを行う。

3. 成績評価

前期・後期の評価は、中間考査・期末考査・小テストなどの結果、問題演習への取り組み方、授業中における発表・話し合いなどの参加状況、夏・冬の長期休業中の課題、提出物の状況などを統合して、判断する。年間の評価は、前期および後期の成績を統合して行い、さらに下記の観点を加えるものとする。

- ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすることができたか。【知識及び技能】
- ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈できたか。またそれらに対する自分の考えが効果的に伝わるよう、文章の構成や展開、文体、語句などの表現の仕方を工夫できたか。【思考力、判断力、表現力等】
- ・目的や課題に応じて様々な情報を収集・活用し、予習復習することができたか。【主体的に学習に取り組む態度】

4. 使用教科書

教科書	東京書籍	「精選言語文化」
副教材	東京書籍	「精選言語文化 学習課題ノート」
	第一学習社	「新版六訂 カラー版新国語便覧」
	桐原書店	「読んで見て覚える 重要古文単語315 三訂版」
	数研出版	「読解をたいせつにする 要点プラス 体系古典文法」
	桐原書店	「基礎から解釈へ 漢文必携」
	桐原書店	「基礎から解釈へ 漢文必携 チェックノート基礎編」

5. 小テスト実施計画「読んで見て覚える重要古文単語315」

	4月	5月	6月	7月	8、9月
範囲	P34～P57	P58～P61 P88～P97	P62～P87	P98～P117	P118～P139
	10月	11月	12、1月	2月	3月
範囲	P144～P161	P162～P185	P186～P193 P214～P221	P194～P213	P226～P243

6. 探求学習

自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

※全コース共通課題「俳句作成」（おーいお茶新俳句大賞）

7. 年間学習計画

月	授 業 内 容	備 考
4	オリエンテーション 古文編一 古文入門 宇治拾遺物語「児のそら寝」「絵仏師良秀」	古典においては、古文及び漢文の両方を取り上げ、一方に偏らないようにする。
5	現代文編 小説1 芥川龍之介「羅生門」 前期中間考査	「読んでみて覚える重要単語」小テストは進度やクラスの状況に応じて、適宜実施する。
6	古文編二 随筆 徒然草「九月二十日のころ」 前期期末考査	
7	用言の活用練習	副教材「読解をたいせつにする 要点プラス 体系古典文法」や「基礎から解釈へ 漢文必携」を適宜利用し、文法事項や重要句形などの知識定着を図る。
8	【夏季休業】	
9	漢文編一 漢文入門 訓読 格言 再読文字 故事成語「矛盾」	<俳句作成>の指導に限らず、言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚をもたせられるよう、読み比べや批評などの活動も行う。
10	漢文編二 寓話 戦国策「借虎威」 現代文編三 詩歌 「一つのメルヘン」「I was born」	
11	古文編三 歌物語 伊勢物語「芥川」 後期中間考査	「文学的文章」に関するの演習は、「現代の国語」で実施する。
12	古文編四 日記 土佐日記「馬のはなむけ」 現代文編四 太宰治「富嶽百景」	
1	【冬季休業】	
2	漢文編三 詩文 「春暁」「春望」「香炉峰下、新卜山居」 古文編五 和歌 「万葉集」「古今和歌集」 「新古今和歌集」	
3	学年末考査 現代文編四 村上春樹「鏡」	

地 歴 科	歴史総合	2 単位
第 1 学 年	特進 G コース	

<授業目標>

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会の中で主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

<授業内容>

1. 近現代の歴史を、世界とその中の日本という観点から広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わるものとして理解する。
2. 2 単位（年間約60回）の授業で履修可能な範囲を考慮して、教科書の後半に重点を置く。
本授業では、①世界恐慌から第二次世界大戦、②戦後の国際政治、③戦後の日本を対象とする。
3. 講義形式を基本とするが、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるため、発表・論述といった言語活動や視聴覚教材を活用した授業を多く取り入れる。

<課外や他の授業との関連> ※括弧内数字は単位数

1 年次	文理	2 年次	3 年次
歴史総合(2) 公共(2)	文系	地理総合(2) 世界史探究(3) 日本史探究(3)	世界史探究(4)+世界史特講(1) 政治経済(3) 日本史探究(4)+日本史特講(1)
	理系	地理総合(3)	地理探究(4)

1. 文理選択や世界史・日本史選択については2年次以降に変更できない。
2. 課外授業（ゼミナール）については、2年次以降、受験科目としての必要性に応じて設定する。

<留意点>

1. 教科書、ノート、資料集は、授業・課外の別なく常に持ってくること。
2. ノート作成、副教材のチェックのために赤ペンやマーカーは必ず携帯すること。
3. 試験問題を含めた配布物は必ず保管すること。

<成績評価>

1. 定期考査・確認テスト・授業態度・ノートや課題の提出状況などを評価の対象とする。
2. 下記の3観点に基づき、総合的に評価を行う。
 - ①知識・技能 …定期考査・確認テスト等で、正確な解答を作成できているか。
歴史的な事象の原因とその意義（原因→事象→影響）が意識できているか。
発表や論述において、論理的な表現ができているか。
 - ②思考・判断・表現 …授業中の教師との問答や考査、探究学習の中で、自ら疑問点を見つけ、論理的思考や判断に基づき解決していこうとする姿勢ができているか。
 - ③主体的に学習に取り組む態度 …授業中における講義を聴く態度、ノートへの記載内容の質、発問に対する回答を行う姿勢がしっかりできているか。

<学習到達度>

1. 定期考査では、70%以上の得点率を目標とする。
2. 単元ごとの小テスト（確認テスト）では、80%以上の得点率を目標とする。

<使用教材>

使用教材	書 名	発 行 所
教 科 書	歴史総合—近代から現代へ—	山川出版
副 教 材	新詳 歴史総合	浜島書店

<年間計画>

月	週	授 業 内 容
4	1	前史 1 (産業革命・市民革命・社会主義)
	2	前史 2 (世界分割と列強の対立、第一次世界大戦とロシア革命)
	3	前史 3 (国際平和と安全保障、アジア・アフリカ地域の民族運動)
5	4	世界恐慌の発生と各国の対応
	5	ファシズムの台頭
	6	大戦前夜
	7	前期中間考査
6	8	日本の大陸侵略 (日清・日露戦争、韓国併合、第一次世界大戦)
	9	日本の恐慌と満州事変
	10	日中戦争と国内外の動き
	11	第二次世界大戦と太平洋戦争 (ヨーロッパの戦争)
	12	第二次世界大戦と太平洋戦争 (太平洋戦争と枢軸国の敗北)
7	13	前期期末考査
	14	新たな国際秩序と冷戦のはじまり
	15	アジア諸地域の独立 (中華人民共和国成立と朝鮮戦争)
8	夏季休業	
	16	アジア諸地域の独立 (南・東南アジアの独立、西アジア情勢)
9	17	占領下の日本と民主化 (終戦処理、戦犯裁判、新憲法制定)
	18	占領下の日本と民主化 (民主化の諸改革)
	19	占領政策の転換と日本の独立
	20	集団防衛体制と核開発
10	21	米ソ両大国と平和共存
	22	西ヨーロッパの経済復興
	23	第三世界の連携と試練
	24	核戦争の恐怖から軍縮へ
11	25	冷戦構造のゆらぎ
	26	世界経済の転換
	27	アジア諸地域の経済発展と市場開放
	28	後期中間考査
12	29	冷戦終結と国際情勢
	30	ソ連崩壊と経済のグローバル化
	31	開発途上国の民主化と独裁政権の動揺
	32	地域紛争の激化
	冬季休業	
1	33	55年体制の成立 (保守合同と国際社会への復帰)
	34	55年体制の成立 (60年安保と沖縄返還)
	35	日本の高度経済成長
2	36	日本の安定成長と経済大国へ
	37	プラザ合意とバブル経済
	38	国際社会の中の日本 (55年体制・バブル経済の崩壊)
	39	国際社会の中の日本 (国際貢献と21世紀の政治)
3	40	学年末考査
	42	現代世界の諸課題
	43	現代日本の諸課題
	春季休業	

公民科	公共	2単位
第1学年	特進Gコース	

<授業目標>

- ・人間の尊重と探求の精神に基づき、広い視野に立って理解を深め、現代社会における諸問題に対する判断力の育成を図る。
- ・国際社会の一員として必要な自己のあり方や生き方についての考える能力と態度の育成を図る。
- ・今年度は倫理分野と国内政治分野の基礎的な知識を養成する。
- ・事象の暗記による理解に終始せず、社会の一員としての公民の資質（批判的な視点で幅広い情報を収集する、意見を述べる、他の意見を聞く、意見を集約する、意見をまとめ、発表する）を涵養する。
- ・「公共」での共通テストに対応できる実力を養成する。また、「政治・経済」、「倫理・政治・経済」での受験に対応できる実力も養成する。

<授業内容>

- ・第3学年の文系で「政治・経済」の授業が設定されているため、本年度では倫理分野の「青年期」、国内政治分野の「民主社会の倫理」、「民主国家における基本原理」、「日本国憲法の基本的性格」、「日本の政治機構と政治機構と政治参加」の内容を授業実施する。国内経済分野、国際政治分野、国際経済分野の内容は第3学年の政治・経済の授業で実施する。
- ・授業内で時事問題を積極的に取り上げるだけでなく、自ら積極的に考える力を養成するため、新聞やインターネットを使い社会問題に対して調べ、発表するといった作業的な学習を取り入れる。
- ・探求学習では、現代の社会における問題点に焦点を当て、集団討論、体験学習、レポート作成などを通じてその問題の原因・現状・対策の理解を深めていく。

<授業到達度>

- ・定期考査、確認テストを実施し、80%以上の得点率を目標とする。

<留意点>

- ・教科書、資料集、ノートは授業には必ず持ってくること。
- ・配布されたプリントや試験は必ずファイルして保存すること。
- ・新聞は必ず目を通して、国内外の社会でおきている事柄に関心を持つこと。
- ・公共は倫理分野や政治・経済分野だけでなく、日本史や世界史、地理にも大きく関連する科目のため、これらの科目を学ぶ上での基礎となることを意識し、積極的に授業を受けること。

<成績評価>

以下の3観点から5段階評価をつける

- ①主体的に学習に取り組む態度：通常の授業での聞く姿勢、発言など授業態度を基本とし、課題の提出状況や取り組みの状態、探求学習での積極的な取り組みなどにより評価する。
- ②思考・判断・表現：探求学習における集団討論やレポートなどでの評価が中心となるが、通常授業での発言や課題の取り組み状態により評価する。
- ③知識・技能：将来、市民として社会参加するために必要な知識、情報収集力、分析力、判断力を考査や課題提出などを通じて評価する。

<使用教材>

使用教材	書名	発行所
教科書	詳述 公共	実教出版
副教材	2024 ブームアップ公共資料	実教出版

<年間計画>

月	週	
4	1	生涯における青年期の意義
	2	生涯における青年期の意義
	3	青年期と自己形成の課題
5	4	青年期と自己形成の課題
	5	職業生活と社会参加
	6	現代社会と青年の生き方
	7	前期中間考査
6	8	人間の尊厳と平等
	9	人間の尊厳と平等
	10	自由・権利と責任・義務
	11	人権保障の発展と民主政治の成立
7	12	人権保障の発展と民主政治の成立
	13	前期期末考査
	14	国民主権と民主政治の発展
8	15	国民主権と民主政治の発展
	夏季休業	
9	16	国民主権と民主政治の発展
	17	国民主権と民主政治の発展
	18	日本国憲法の成立
	19	日本国憲法の成立
10	20	平和主義とわが国の安全
	21	平和主義とわが国の安全
	22	平和主義とわが国の安全
	23	平和主義とわが国の安全
11	24	基本的人権の保障
	25	基本的人権の保障
	26	基本的人権の保障
	27	基本的人権の保障
12	28	後期中間考査
	29	人権の広がり
	30	人権の広がり
	31	人権の広がり
1	32	人権の広がり
	冬季休業	
	33	政治機構と国民生活
	34	政治機構と国民生活
2	35	人権保障と裁判所
	36	人権保障と裁判所
3	37	地方自治
	38	地方自治
	39	選挙と政党
3	40	学年末考査
	41	政治参加と世論
	42	政治参加と世論

数学科	数学Ⅰ(4単位)・数学A(2単位)	6単位
第1学年	普通科 特進Gコース	

(授業目標)

- ・数学を用いて事象を論理的・発展的に考察し、簡潔・明確・的確に表現する力を養う。
- ・数学のよさを認識して日常生活の中で数学を積極的に活用し、粘り強く考え、評価・改善しようとする態度を養う。
- ・基本的原理・法則の理解を深め、更に発展的な事項や程度の高い問題に取り組むことにより、国公立大学や難関私立大学への進学を目指す。

(授業内容)

- ・基本的・基礎的な事柄を確実に理解させると共に、副教材等を使用し、入試問題を授業の中に取り入れ、更に発展的な事項及び程度の高い問題に取り組みせ、数学的な見方や考え方をより深く理解させる。

(成績評価)

- ・考査はコース毎に共通問題とする。
- ・成績評価については、コース毎に概ね共通評価とする。考査成績、授業態度、課題の提出状況等を勘案して、総合的に評価する。
- ・表・式・グラフなどを用いて数量の関係を数学的に表現し、自らの考えを他者に伝える活動を総合的に評価する。
- ・話し合い活動の中で、既習事項を活用して自らの考えを深め、考察し発表する過程を総合的に評価する。

数学Ⅰの評価のポイント

〈知識・技能〉

数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかを課題テスト、小テスト、考査で見る。

〈思考・判断・表現〉

命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けているかをレポート、質問、小テスト、考査等で見る。

〈主体的に学習に取り組む態度〉

数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うことができているかをワークシートへの取り組みやノートの記述内容、生徒間の話し合い活動等で見る。

数学Aの評価のポイント

〈知識・技能〉

図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかを課題テスト、小テスト、考査で見る。

〈思考・判断・表現〉

図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察しようとしているかをレポート、質問、小テスト、考査等で見る。

〈主体的に学習に取り組む態度〉

数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うことができているかをワークシートへの取り組みやノートの記述内容、生徒間の話し合い活動等で見る。

(使用教材)

使用教材	書名	発行所
教科書	数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ	数研出版
副教材	4STEP数学Ⅰ+A、練習ドリル数学Ⅰ標準編・数学A標準編	数研出版

(3年間の履修展開)

1 学年	2 学年	3 学年
数学Ⅰ (4)	数学Ⅱ (4) (理系)	数学Ⅲ (4) (理系)
	数学B (2) (理系)	数学C (3) (理系)
数学A (2)	数学Ⅱ (4) (文系)	数学C (5) (文系)
	数学B (2) (文系)	

(学習方法)

- ① 高校の授業内容は、「早く・多く・難しい」ということを自覚する。
 - ・中学までは予習などしなくても、授業がわかるケースが多かったのは、授業の展開がゆっくりで覚える内容も少なかったからである。高校で中学とのギャップを感じるだろうが、授業に臨むうえでやはり最低限度の予習をし、予備知識を蓄えておくことが必要となってくる。これは授業を大切にするためにどうしても必要である。
- ② 「受身の姿勢」でなく、自らが積極的に取り組むこと。
 - ・授業においては、黒板で説明を受けただけで出来るようになったと錯覚しがちである。しかし、それは解答の仕方が書いてあるからであって、実際に問題を解くうえでなかなか解答に結びつかない場合が多いのが現状である。その現状を打破し数学が出来るようになるためには、やはり家庭学習における反復練習が必要である。つまり、学習効率を高めるためには、復習が大切な要素となる。
- ③ 時代を担う人材を目指して「今」からできることを。
 - ・科学の言葉としての「数学」という視点に立ち、客観的・論理的に物事を判断する手段として活用する必要がある。他者との議論を深めていくためには、結論に至るまでの過程をどのように伝えていくのか、コミュニケーション能力が必要である。いろいろな利害や価値観が絡む議論において、いかに言い争いではなく、合意できる・できないところをデータを持って議論するのか。今後の課題探求学習を踏まえ、「今」からできることを、将来を見据えて努力していこう。

数学 I

月	単元名	項目名	授業内容
4	第1章 数と式	数と式	中学数学の復習
			整式とその加法・減法、整式の乗法
			展開と因数分解
5		実数	数の集まりと四則計算、平方根の計算
			有限小数と循環小数、2重根号
5		1次不等式	不等式と不等号、1次不等式
	連立不等式、不等式の利用		
前期中間考査			
6	第1章 数と式	1次不等式	絶対値を含む方程式・不等式
			第1章の総合問題演習
前期期末考査			
7	第2章 集合と命題	集合と命題	集合と部分集合、共通部分、和集合、補集合
			命題と集合、対偶・背理法の証明
			第2章の総合問題演習
夏季休業中課外 既習事項の総復習や応用問題など			
9	第3章 2次関数	2次関数とグラフ	関数とグラフ
			平行移動、最大・最小
			2次関数の決定
10		2次方程式と2次不等式	2次方程式、2次不等式
			第3章の総合問題演習
11		第4章 図形と計量	三角比
	三角比の拡張、三角比の相互関係		
	正弦定理		外接円の半径と正弦定理
後期中間考査			
12	第4章 図形と計量	余弦定理	辺の長さとの余弦定理、角度との余弦定理
		図形の計量	三角形の面積、空間図形の計量
			第4章の総合問題演習
冬季休業中課外 既習事項の総復習や応用問題など			
1	第5章 データの分析	データの分析	データの整理、標準偏差、散布図
			相関係数、分割表、仮説検定
			第5章の総合問題演習
2	(数学Ⅱ)		
学年末考査			
3	数学Ⅰの総合演習		
学年末休業中課外 数学Ⅰ・Aの総復習及び総合演習			

数学A

月	単元名	項目名	授業内容
4	第1章 場合の数と確率	場合の数	集合、集合の要素の個数
5			樹形図、和・積の法則
		順列・組合せ	順列、円順列と重複順列
			組み合わせ、組合せの利用
前期中間考査			
6	第1章 場合の数と確率	確率の基本性質	事象と確率
		様々な試行の確率	独立試行、反復試行、条件付き確率
前期期末考査			
7	第1章 場合の数と確率	確率の応用	期待値
			第1章の総合問題演習
夏期休業中課外 既習事項の総復習や応用問題など			
9	第2章 図形の性質	三角形の性質	角の二等分線、外心・内心・重心
10		円の性質	円周角の定理、円に内接する四角形
			円の接線、方べきの定理、2つの円
11		空間図形	直線と平面、多面体
	第2章の総合問題演習		
	第3章 数学と人間の活動	約数と倍数	素因数分解、最大公約数、最小公倍数 余りによる整数の分類
後期中間考査			
12	第3章 数学と人間の活動	1次不定方程式	ユークリッドの互除法
			2元1次不定方程式
冬季休業中課外 既習事項の総復習や応用問題など			
1	第3章 数学と人間の活動	記数法	古代の記数法、現代の記数法
2		座標の考え方	平面・空間上の点の位置
		身近な数学	ゲーム・パズルの中の数学
学年末考査			
3			第3章の総合問題演習
	数学Aの総合演習		
学年末休業中課外 数学I・Aの総復習及び総合演習			

理 科	生 物 基 礎	2 単 位
第 1 学 年	特 進 G コ ー ス	

【授業目標】（文部科学省「高等学校 学習指導要領 平成30年告示」）

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

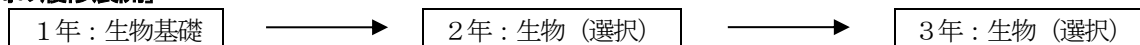
【授業内容】

- (1) 観察、実験などの体験的な学習活動を充実させる。その際、話し合い、レポートの作成、発表を行う。
- (2) 観察と実験を通じた探究活動を行い、それに基づいて学習を進める。観察、実験などの技能を身に付け、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。
- (3) 科学やそれを応用した技術と日常生活のつながりを強調する。また、学習内容と職業等の関連性に触れ、学びの意欲を高める。
- (4) ICT機器を活用し、授業内での考察過程の共有や配信された動画の視聴、課題に取り組む。

【到達度】

定期考査の他に、各節終了時に確認テストを実施する。テストにおいて概ね80%の得点が当該節の到達目標である。これにより学習内容の確認・定着をはかる。

【3年間の履修展開】



生物基礎(2単位)：

- ・顕微鏡の使い方を確認し、マイクロメーターを用いて細胞の大きさを計算できるようにする。
- ・様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性を持っていることを理解させる。
- ・細胞の構造と細胞小器官の働きを学習し、生命活動の維持について学ぶ。
- ・呼吸や光合成のしくみを知り、代謝を理解する。
- ・DNAの遺伝情報から、タンパク質が合成されるしくみを学ぶ。さらに、遺伝暗号表からアミノ酸配列を求められるようにする。
- ・内分泌系と自律神経系の働きを学び、恒常性のしくみについて理解を深める。
- ・免疫の種類やしくみを学び、実際の生活で活用されている治療方法に結び付ける。
- ・環境と生態系のバランスについて考え、環境問題や生態系の破壊に関する知識を深める。

【成績評価】

成績の評価は、定期考査、確認テスト等による理解度及び到達度の評価と、観察・実験活動への取り組み及び結果の考察やレポート、発表等の評価を、「3観点」に基づく観点別評価で総合的に判断し、5段階に評定する。

「3観点」： ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

なお、定期考査は上記の観点①②に基づく出題をする。

【使用教材】

教材名	書 名	発 行 所
教科書	新編 生物基礎	数研出版
資料集	新課程版 スクエア 最新図説生物	第一学習者
問題集	リードLightノート 生物基礎	数研出版

<年間計画>

月	週	授 業 内 容		観点別学習と重点項目	
4	1	序章 生命の探求	1. 探究活動の進め方		
	2		2. 顕微鏡の使い方と顕微鏡観察	【実験】 顕微鏡の使い方	①③
	3	第1章 生物の特徴	第1節 生物の多様性と共通性	【実験】 細胞の観察	①②③
5	4		生物の多様性と共通性の由来		②
	5		共通性としての細胞		②
	6		第2節 エネルギーと代謝		①③
	7	前期中間考査			
6	8		代謝と酵素		②③
	9		第3節 呼吸と光合成		①③
	10		呼吸と光合成		①
	11		ミトコンドリアと葉緑体の起源		②③
	12	第2節 遺伝子とその働き	第1節 遺伝情報とDNA		①③
7	13	前期期末考査			
	14		DNAの構造		③
8	夏季休業				
9	15		第2節 遺伝情報の複製と分配		②③
	16		細胞周期と遺伝情報		①
	17		第3節 遺伝情報の発現		②③
	18		タンパク質合成		①
	19		遺伝子とゲノム		②③
10	20	第3章	第1節 体内での情報伝達と調節		②③
	21	生物の体内環境の維持	動物のからだと恒常性		①
	22		神経系と内分泌系	【演習】 ホルモン分泌の流れ	②③
	23		第2節 体内環境の維持のしくみ		②③
11	24		体内環境の維持	【演習】 酸素解離曲線の見方	①
	25		血糖濃度の調節のしくみ		①
	26	後期中間考査			
	27		血液の循環を維持するしくみ		②
	28		第4節 免疫のはたらき		①
12	29		からだを守るしくみ		①③
	30		自然免疫		①
	31		適応免疫	【資料】 日常生活にある免疫疾患	①②
	冬季休業				
1	32	第4章	第1節 植生と遷移		①③
	33	生物の多様性と生態系	植生の遷移の過程としくみ	【演習】 光 - 光合成曲線の見方	①
	34		第2節 植生の分布とバイオーム		①②
	35		世界のバイオーム		①
2	36		日本のバイオームにおける分布		①
	37		第3節 生態系と生物の多様性		②③
	38		第4節 生態系のバランスと保全		②③
	39		人間の生活と生態系の保全	【思考】 生物多様性について	③
3	40	学年末考査			
	41		生物基礎のまとめ		①③
	42		生物基礎のまとめ		①③

理 科	物 理 基 礎	2 単 位
第1学年	特進Gコース	

[授業目標] (文部科学省「高等学校 学習指導要領 平成30年告示」)

物体の運動と様々なエネルギーに係わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動の様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。
- (2) 物体の運動と様々なエネルギーから問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
- (3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

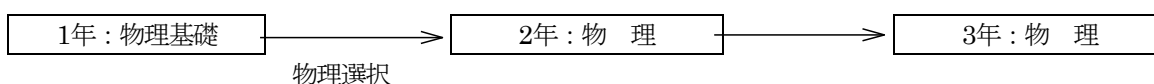
[授業内容]

- (1) 運動、力、エネルギー、波動、電気についての基本的な概念や原理・法則について学習する。
- (2) 授業は、理解を容易にするため図解や記号・数式による解説が多い。したがって、数学的な基礎知識が必要であり、図解や記号・数式を活用して物理的な事物・現象を理解できるようにすることが重要である。また、グループ実験、個人実験、演習実験が行われるが、実験を通して物理の基本的な概念や原理・法則の理解をより深めることも重要である。
- (3) 学習方法として、まず物理の基本的な概念や原理・法則を整理する。そして、それらをいろいろな物理的な事物・現象にあてはめ、論理的に解釈し、理解できる応用力を身につけるようにする。それによって、物理的な事物・現象は、基本的な概念や原理・法則の組み合わせであるという物理の本質が理解できるようになる。

[到達度]

定期考査の他に、確認テストを実施する。テストにおいて概ね80%以上の得点が到達目標である。これにより学習内容の確認・定着をはかる。

[3年間の履修展開]



[入試科目への対応]

「物理基礎」は、国公立・私立大学理工系学部への進学希望者には必須である。また、大学入試共通テストの理科の選択科目としても対応できる。さらに国公立・私立大学理工系学部への進学希望者は、「物理」まで履修する必要がある。

[成績評価]

成績評価は、定期考査、確認テスト等による理解度及び到達度の評価と観察・実験活動への取り組み及び結果の考察やレポート、発表等の評価を、「3観点」に基づく観点別評価で総合的に判断し、5段階に評定する。また、定期考査についても、「3観点」に基づく問題を出題する。

「3観点」①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

[使用教材]

教材名	書 名	発 行 所
教科書	高等学校 新物理基礎 (書籍およびデジタル版)	第一学習社
副教材	プログレス物理基礎 (新課程版) (書籍およびデジタル版)	第一学習社

<年間授業計画> 物理基礎 (R6 特進G1年)

実験・観察を通して3観点(①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的学習に取り組む態度)による評価を行う

月	学習単元	学習内容	学習のねらい	
前 期	4 第1章 力と運動 第1節 物体の運動 ①速度	速さ 等速直線運動 速度 速度の合成 相対速度	・変位, 速度, 加速度など, 公式との関係について理解する。 ・物理における単位の重要性を理解する。 ・速度の合成, 相対速度の考え方を理解する。	
	5 ②加速度 ③落下運動	加速度 等加速度直線運動 自由落下 鉛直投射 [実験]重力加速度の測定①③④	・斜面を転がる物体の運動から, 等加速度直線運動を理解する。 ・自由落下運動, 鉛直投げ下ろし, 鉛直投げ上げでの物体の運動について, 等加速度直線運動の公式を用いて理解する	
	前期中間考査			
	6 ①さまざまな力 ②力の合成・分解とつりあい	力 重力 面から受ける力 糸の張力 ばねの弾性力 力の合成と分解 力のつりあい 作用・反作用の法則 圧力 流体中における圧力と浮力 [観察]浮沈子の原理①②④	・質量と重さの違いについて理解する。 ・張力, 垂直抗力, 弾性力等, いろいろな力について理解する。 ・力の3要素など, 力のはたらきと表し方について理解する。 ・力のつりあいと作用・反作用の考え方の違いを理解する。 ・流体中の圧力と浮力の考え方を理解する。	
	前期期末考査			
	7 第3節 運動の法則 ①運動の3法則 ②運動方程式の利用 ③抵抗力を受ける運動	慣性の法則 運動の法則 運動方程式 運動方程式の立て方 連結している物体の運動 静止摩擦力 動摩擦力 空気抵抗と終端速度 [観察]摩擦力①②	・実験データを分析し, 運動の第2法則を理解する。 ・例題を解くことにより物体にはたらくすべての力を求め, 運動方程式を立て方を理解する。 ・静止摩擦力と動摩擦力がどのようにはたらくか公式を用いて理解する。	
	夏季休業課題: レポート提出「物体の運動・力のはたらきとつりあい・運動の法則」			
	9 第II章 エネルギー 第1節 仕事と力学的エネルギー ①仕事と仕事率 ②運動エネルギー ③位置エネルギー ④力学的エネルギー	仕事 仕事の原理 仕事率 エネルギー 運動エネルギー 運動エネルギーの変化と仕事 重力, 弾性力による位置エネルギー 保存力と位置エネルギー 力学的エネルギー保存の法則 保存力以外の力がする仕事 [実験]力学的エネルギー保存の法則①②④	・物理量としての仕事の意味を理解する。 ・仕事と運動エネルギーの変化との関係について理解する。 ・重力や弾性力による位置エネルギーについての公式を, 仕事の考え方をを用いて理解する。 ・力学的エネルギー保存の法則について理解する。 ・保存力以外の力がはたらく場合, その力がした仕事だけ力学的エネルギーが変化するを理解する。	
	10 第2節 熱とエネルギー ①熱と温度 ②エネルギーの変換と保存 ③気体の圧力・温度・体積	熱運動 温度 熱の移動と熱量 物質の三態と熱運動 熱容量と比熱 熱量の保存 物体の熱膨張 熱と仕事 内部エネルギー 熱力学の第1法則 エネルギーの保存 熱機関と熱効率 不可逆変化 気体の圧力 大気圧	・熱運動, 絶対温度, 絶対温度とその関係について理解する。 ・熱平衡, 潜熱, 比熱, 熱容量, 熱量の保存, 熱膨張について理解する。 ・熱と仕事の同等性, 内部エネルギー, 熱力学の第1法則を理解する。 ・エネルギーの相互変換可能とエネルギーの保存について理解する。 ・熱機関と熱効率, 可逆変化と不可逆変化について理解する。 ・気体の圧力, 大気圧について理解する。	
	11 第III章 波動 第1節 波の性質 ①波の表し方とその要素 ②波の重ねあわせ	波の進行と媒質の振動 周期的な波 正弦波と波の要素位相 横波と縦波 波のエネルギー 重ねあわせの原理 定常波 波の反射と波形の変化 [観察]波の重ねあわせ①②③	・媒質の振動と周期, 速さの関係による波の基本的な公式を理解する。 ・横波と縦波の性質の違いを理解する。 ・波の重ねあわせの原理を学習し, 波の独立性について理解する。 ・波の反射を学習し, 固定端と自由端での反射の違いを理解する。	
後期中間考査				
12 第2節 音波 ①音の伝わり方 ②物体の振動	音の速さと縦波 音の3要素 うなり 物体の固有振動 弦の固有振動 気柱の固有振動 共振・共鳴 [実験]気柱の共鳴①②③④	・音波が縦波であること, 音の速さ, 音の3要素, 音の反射, うなりなど, 音波の性質や伝わり方について理解する。 ・共振, 共鳴, 弦の固有振動, 気柱の共鳴など, 物体の振動について理解する。		
冬季休業課題: レポート提出「エネルギー・波動」				
後 期	1 第IV章 電気 第1節 静電気と電流 ①静電気 ②電流と抵抗 ④直流回路	電荷と帯電 帯電のしくみ 電荷と電流 電流と電子の速さ 電圧 オームの法則 抵抗率 導体・不導体・半導体 抵抗の接続電流計と電圧計 電気と仕事 電流と熱 電力量と電力	・自由電子の流れと電流について学習し, オームの法則について理解する。 ・抵抗の接続による合成抵抗を求め, 電圧計, 電流計の接続を理解する。 ・ジュールの法則, 電流とエネルギーに関する法則性を理解する。 ・電力と電力量を理解する。	
	2 第2節 電流と磁場 ①磁場 ②モーターと発電機 ③交流と電磁波	磁石と磁場 磁力線 電流がつくる磁場 電流が磁場から受ける力 モーター 電磁誘導 発電機 直流と交流 交流の発生 変圧器 送電 交流から直流への変換 電磁波	・電流と磁場の関係を理解する。 ・電流がつくる磁場と右ねじの法則を理解する。 ・モーターや発電機などの構造について理解する。 ・電磁誘導について理解する。 ・電波, 可視光線, 赤外線, 紫外線, X線について理解する。	
	学年末考査			
3	第3節 エネルギーとその利用 ①太陽エネルギーと化石燃料 ②原子力エネルギー	太陽エネルギーの移り変わりを利用 化石燃料の利用と環境保全 原子と原子核 原子核崩壊と放射線 原子力とその利用	・太陽エネルギーの直接, 間接的な利用についてや, エネルギーの流れと, 問題点や対策を理解する。 ・原子と原子核, 放射線, 原子力エネルギー, 核エネルギーの利用について理解する	
春季休業課題: レポート提出「電気」				

保健体育科	体 育	2単位
第1学年	特進Gコース	

[授業目標]

- 1 各種の身体活動を通して運動技能を高める。
- 2 心身共に健康で、生涯にわたり運動に親しめる方法を学ぶ。

[授業内容・種目]

【 集団行動 】… 集団の約束やきまりを守り、機敏かつ的確に行動する。

- ・ラジオ体操第一（準備体操として通年実施する）
- ・全体行進、番号のかけ方、列の増減などを行う。

【 バスケットボール 】

- ・基本技術 パス、ドリブル及び正確なシュートを体得する。
- ・ゲームを通しバスケットのルール、審判法を身につける。

【 ソフトバレー 】

- ・基本姿勢から場面に応じてそれぞれのパスを使い分ける。
- ・ポイントに結びつくような球質のサービスを身につける。
- ・スパイカーに打ちやすいトスを上げられるようにする。
- ・それぞれの技能を習得した段階でゲームを楽しむ。

【 持久走 】

- ・準備体操後必ず脈拍及び体調のチェックを行う。
- ・ペース走（距離、または決められた時間を自分のペースを守り走る）
- ・インターバルトレーニング
- ・レパティショントレーニング

【 柔道（男子） 】

- ・受け身、投げ技、寝技等基本の習得。
- ・ルールを理解し、審判ができるようにする。
- ・対人技能を高め、得意技を身につける。また得意技を生かした練習や乱取りができるようにする。

【 フットサル（男子） 】

- ・基本技術であるドリブルとリフティングが正確にできるようにする。
- ・ルールを理解し、審判ができるようにする。
- ・パスとトラッピングなど動きの中での確にプレーが行えるようにする。
- ・ルールを理解し審判ができるようにする。

【 ソフトテニス（女子） 】

- ・正しいグリップの方法を習得し、グランドストロークにおけるフォア・バックハンドの基本を理解し、正確な打ち方を身につける。
- ・ネットプレーにおけるボレーや、決定打ともなるスマッシュを練習する。
- ・正確なサービスを身につけ、技能に応じたゲームが出来るようにする。

【 ダンス（女子） 】

- ・ダンスを踊るために必要な基礎体力をつける。
- ・テーマに沿って、自分の感情や考え方を身体表現としてする力を得る。
- ・身体各部の構造を理解し、イメージ通りに動きをコントロールできるようにする。

【 体育理論 】

- ・人間にとって「動く」とは何か
- ・スポーツの始まりと変遷
- ・文化としてのスポーツ
- ・オリンピックと国際理解
- ・スポーツと経済
- ・ドーピングとスポーツ倫理

[授業の留意点]

- 見学者は授業開始前に担当教員の許可を得ること。また、見学中はジャージ（柔道着）を着用すること。
- 体育用品、備品は大切に扱うこと。個人のジャージ・シューズ等は大切に管理し、貸し借りをしないこと。

[成績評価]

【知識・技能】 ・各領域、各種目の運動の特性を理解し、運動の技術（技）の名称や行い方等、段階に応じた技能を身につけているか。

・スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について理解しているか。

【思考・判断・表現】 ・効果的な練習方法を理解し、実践しているか。

・各種目で戦術、課題解決方法を理解しているか。

【主体的に取り組む態度】 ・公正、協力、責任などの態度を身につけているか。

- ・健康、安全に留意して自ら率先して楽しみながら運動しようとしているか。

以上の観点で踏まえ、授業の取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）などから総合的に判断する。

〈年間計画〉

月	授 業 内 容	
	男 子	女 子
4	【集団行動】 ・ラジオ体操第一 ・集合隊形 列の整頓 開列 番号 ・列の増減 方向変換 行進 駆け足	【ダンス】 隔週1単位通年で実施する ○ダンスを踊るために必要な簡単な動きを作り、イメージを持ったひと流れの動きを作る。
5	【バスケットボール】 ・単元の説明 ・パス練習 ・ドリブル練習	【ソフトバレー】 ・単元の説明 ・パス練習 直上トス オーバーハンドパス
	前 期 中 間 考 査	
6	・動きの中でのパス、ドリブル ・シュート ドリブルシュート セットシュート ・コンビネーションプレー ・ゲームと審判法	アンダーハンドパス・スパイクとブロック ・サーブとサーブレシーブ ・チームプレーとローテーション ・ゲームと審判法
	【柔道】 ・単元の説明および礼法 ・受身 前受身 後ろ受身 横受身 前回り受身 ・基本動作 崩しと体さばき	【ソフトテニス】 ・単元の説明 ・ラケットの握り方 ・ラケットを使ったボールゲーム
7	前 期 期 末 考 査	
	【体育理論】 ・人間にとって「動く」とは何か ・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ	
8	夏 季 休 業	
9	・オリンピックと国際理解 ・スポーツと経済 ・ドーピングとスポーツ倫理	
	・技術練習 立ち技 出足払 送り足払 立ち技 大外刈 大内刈	・基本的な打法 ①グランドストローク ②ボレー ③スマッシュ ④サービス
10	・寝 技 けさ固め 横四方固め	・ゲームと審判法(シングルス・ダブルス)
11	【フットサル】 ・単元の説明・基本技術 リフティング ドリブル キック トラッピング・シュートとコンビネーション ・ゴールキーピング	【卓球】 ・単元の説明 ・ラケットの使い方 グリップ ・ラリー ドライブ、カットフォア、バックの打ち分け ・サービス
	後 期 中 間 考 査	
12	・ゲームと審判法	・ゲームと審判法
	【持久走】 ・単元の説明 ・脈拍チェックと体調管理 ・ウォームアップ、ストレッチング	【持久走】 ・単元の説明 ・脈拍チェックと体調管理 ・ウォームアップ、ストレッチング
冬 季 休 業		
1	・ペース走 ・インターバルトレーニング ・レペティショントレーニング ・記録会	・ペース走 ・インターバルトレーニング ・レペティショントレーニング ・記録会
	【ソフトバレー】 ・単元の説明 ・パス練習 直上トス オーバーハンドパス アンダーハンドパス	【ハンドボール】 ・単元の説明 ・キャッチボールとパス ・シュート練習 ジャンプシュート ステップシュート
2	・運動課題、イメージ課題を手がかりにして、作り出した動きを、ダイナミックに表現する。	
3	学 年 末 考 査	
	・スパイクとブロック ・サーブとサーブレシーブ ・試合および審判法	・オフェンス カットイン クロス ブロックプレー ・試合および審判法
	学 年 末 休 業	

保健体育科	保 健	1 単位
第 1 学年	特進 G コース	

〔授業目標〕

高等学校で「保健」を学ぶ目的は、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培うことである。本校の保健授業では、健康・安全、運動・体力について理解を深め、将来にわたってよりよく生きるために、一人ひとりが健康な生活や、健全な行動の仕方について主体的に学び、考え、判断し、責任ある意志決定ができるように様々な方法を理解させ、育成することを目標とする。

〔授業内容〕

「保健」編の学習内容は、現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康の 3 単元からなる。1 年次では現代社会と健康について学習する。

〔2年間の履修展開〕

1 年 第 1 章 現代社会と健康

時代の流れの中で、健康自体のとらえ方や健康のために個人や社会に求められていることも変化している。生活習慣病、薬物乱用、精神疾患などを中心に現代の健康問題や健康の考え方について学習する。

第 2 章 安全な社会生活

安全は誰もが享受すべきものであり、そのためには交通事故や自然災害、犯罪への備えと、応急手当に関する知識と技能が必要である。仮に被害が出ても最小限にとどめることができるよう、安全な社会づくりについて学習する。

2 年 第 3 章 生涯を通じる健康 第 4 章 健康を支える環境づくり

思春期と性の問題、職業と余暇活動の関係、さらに自然環境や食品に関する環境問題の現状などについて学習する。1 年次では個人の健康問題が中心であったが、2 年次では我々を取りまく、さまざまな健康の問題について多角的に考えていく。

〔授業方法〕

基本的には教科書を中心とした講義形式であるが、視聴覚教材を積極的に活用する。また、応急処置などの実技を学習する。

〔成績評価〕

【知識・技能】 それぞれの単元について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解しているか。

【思考・判断・表現】 それぞれの単元について、課題の解決のために考え、判断し、それらを表現することができているか。

【主体的に取り組む態度】 自身の健康や社会生活について関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいるか。以上の点を踏まえ、授業への取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）、定期考査による理解度や学習到達度、課題の提出状況から総合的に判断する。

〔使用する教材〕

教材名	書名	発行所
教科書	現代高等保健体育	大修館書店
副教材	現代高等保健体育パワーポイントスライド集 (Chromebook を使用しロイロノートにて活用)	大修館書店

〈年間計画〉

月	授 業 内 容
4	○ 授業ガイダンス 【1章 現代社会と健康】 1 健康の考え方と成り立ち
	2 私たちの健康のすがた
5	前 期 中 間 考 査
	3 生活習慣病の予防と回復
6	4 がんの原因と予防 ◎テーマ学習 がんの克服を目指して「がん治療最前線」
	5 がんの治療と回復
	6 運動と健康
7	前 期 期 末 考 査
	7 食事と健康
	8 休養・睡眠と健康
	9 喫煙と健康
8	夏 季 休 業
9	10 飲酒と健康
	11 薬物乱用と健康 ◎テーマ学習 薬物乱用への誘いに対応してみよう
	12 精神疾患の特徴
10	13 精神疾患の予防
	14 精神疾患からの回復
	15 現代の感染症
	16 感染症の予防
11	後 期 中 間 考 査
	17 性感染症・エイズとその予防
	18 健康に関する意思決定・行動選択
12	19 健康に関する環境づくり ◎テーマ学習 暮らしているだけで健康になる環境を考えよう
1	冬 季 休 業
	【2章 安全な社会生活】 1 事故の現状と発生要因
	2 安全な社会の形成
2	3 交通における安全
	4 応急手当の意義とその基本
	5 日常的な応急手当
	6 心肺蘇生法 ◎ テーマ学習 心肺蘇生法を実習しよう
3	学 年 末 考 査
	◎ DVD 視聴学習
	学 年 末 休 業

教科名	芸術（音楽Ⅰ）	2単位
第1学年	特進Gコース	

<授業目標>

- (1) 音楽の諸活動を通して、多様な表現、知識を身に付け、音楽に対する豊かな感性と音楽を愛する心情を養う。
- (2) 歌唱活動ではさまざまな楽曲を通して楽曲にふさわしい表現を工夫すること、他のパートとの関わり方やハーモニーを感じ取り、表現することを身につける。
- (3) 楽典に関しては音楽の諸記号や音符やリズムを理解し楽譜を読めるようにする。
- (4) 音楽史を通してバロック時代から近現代の音楽や作曲家を知り、作曲家の心情や時代背景などを理解したうえで楽曲を鑑賞し、多くの代表作を知る。

<授業内容>

- (1) 歌唱（斉唱・合唱）
- (2) 器楽（アルトリコーダー、ギター等）
- (3) 楽典・聴音
- (4) 音楽史・鑑賞

<授業方法>

- (1) 歌唱に関しては、四季に合わせた楽曲や教科書の課題、合唱曲を歌唱する。また詩の内容や楽曲の情景、作者の心情などを感じ取らせ音楽（曲想）との結びつきを理解させ楽曲にふさわしい表現を工夫して歌唱する。
- (2) 器楽に関しては、アルトリコーダーのグループ合奏やギターを通して色々な音楽に触れる。
- (3) 楽典に関しては、音楽理論（音名、音譜、休符、拍子、リズム、音階など）を学習し、楽譜を通して楽曲を理解する力を身に付けさせる。
- (4) 音楽史・鑑賞に関しては代表的な楽曲、作曲家や時代情景について学びそれぞれの音楽のもつ良さや美しさを味わう。

<課外や他の授業との関連>

- (1) 受験などの必要に応じて、課外授業を実施する。

<留意点>

- (1) 合唱等で取りあげる曲については、クラスの構成を考慮して選曲する。

<成績評価>

授業内での実技・筆記テスト（音楽表現の知識、技能）、鑑賞の記録や鑑賞ノート等の提出物、授業態度（主体的に取り組む態度）歌唱活動、音楽活動など（思考・判断・表現）の3観点で評価する。

<使用教科書>

教材名	書名	発行所
教科書	音楽Ⅰ改訂版Tutti	教育出版社

<参考副教材等>

ニュースクールソング

<年間計画>

月	週				
4	1				
	2	自己紹介・年間計画・校歌斉唱			
	3	↓			
5	4	◆ 歌唱 教科書	◆ 鑑賞 ・音楽史	◆楽典	◆器楽合奏
	5	↓	・バロック期の作曲家	音楽の記号	・リコーダ
	6	↓	↓	↓	↓
	7	前期中間考査			
6	8	↓	↓	↓	
	9	↓	↓	↓	↓
	10		↓		↓
	11	↓	↓	↓	↓
	12		↓	↓	グループ発表
7	13	前期期末考査			
	14		・古典派の作曲家	聴音	前期まとめ試験
	15				課題配信
8		夏季休業			※鑑賞課題
	16				鑑賞課題 提出
9	17	・夏の歌曲	・ロマン派の作曲家	・作詞	・ギター演習
	18	↓	↓	聴き合い	↓
	19	↓	↓		↓
	20	↓	↓		↓
	21	↓	↓		↓
10	22	↓	↓		↓
	23	↓	↓		↓
	24	↓	↓		↓
	25	↓	↓		↓
11	26	↓	↓		試験
	27	↓	↓		試験
	28	後期中間考査			
	29	・冬の歌曲			
12	30	ドイツリート	近現代の作曲家		ハンドベル
	31	↓	↓		・ ジングルベル
	32	↓	↓		・ 聖者の行進
	33	↓	↓		試験
1	34	↓	↓		アンサンブル発表会
	35	↓	↓		練習
	36	↓	↓		↓
2	37	↓	↓		↓
	38	↓	↓		試験
	39	↓	↓		試験
	40		オペラ 鑑賞		後期まとめ試験
3	41	学年末考査			
	42				アンサンブル発表会
	43				

芸術科	美術 I	2 単位
第 1 学年	Gコース	

<授業目標>

- (1) 美術の創造活動と鑑賞を通して美的感覚を養い、芸術を尊重する態度と豊かな情操を養う。
- (2) 専門に関する科目・実習を通して専門的な基礎知識や技術を習得させ、文化的教養や表現能力を高める。

<授業内容>

- | | |
|-------------|----------|
| (1) 美術概論・鑑賞 | (4) デザイン |
| (2) 素描・絵画 | (5) 立体 |
| (3) 基本造形 | |

<授業方法>

- (1) 造形の視覚作用を生理的な面から科学的にとらえ、見ること、見えることを基本的に理解させる。また、造形美術の意義を理解させ、創造的な表現と鑑賞の能力を育てる。
- (2) 造形表現の基本となる形態や空間・光陰・影などを把握し、的確な観察力を養い、構成力や表現能力を高める。
- (3) 造形表現の基本的な能力を養うために、さまざまな方法を通して、造形の基礎となる諸要素についての感覚を養い、創造的な構想と構成能力を高める。
- (4) 基本造形の履修内容に基づき、視覚的な伝達効果を学ばせる。また、デザインそのものの歴史的な意義や役割を理解させるなど、技術のみでなく全体を理論的に理解させる。
- (5) 立体の表現を通して、造形表現の基礎でもある空間における立体のあり方を理解させる。
- (6) 創造的な表現と鑑賞の能力を養うため、年間を通して探求学習を実施する。

<課外や他の授業との関連>

- (1) 美術系進学希望者に課外ゼミナールを実施する。

<留意点>

- (1) 教科書・クロッキー帳は常に持参すること。その際、資料等で配布された貼布可能なプリントや小作品等はすべて貼付すること。
- (2) 課題が出された場合には、期限までに必ず提出すること。
- (3) 実習に使用する資料・道具は必要に応じて持参すること。

<成績評価－3 観点>

- (1) 造形的な視点についての理解（色彩や形・光が感情にもたらす効果等）や造形要素の特徴を理解することができたか。 (知識・技能)
- (2) 創造活動と鑑賞を通して、表現の構想を練ることができ、意図に応じて材料や道具の特性を生かすことができたか。 (思考・判断、表現力)
- (3) よりよい表現を目指して発想や構想及び技能を工夫改善しようとしているか。課題作品の提出や出席状況及び探求活動を総合的に評価。 (主体的に学習に取り組む態度)
以上、3 観点で評価する。

<使用教科書>

教材名	書名	発行所
教科書	美術 I	日本文教出版

<使用教材等>

- ・クロッキー帳・アクリル系絵具一式・顔彩絵具一式・コラージュ用具一式
- ・ペーパークラフト用具一式・サンドブラスト用具一式・レザークラフト用具一式
- ・B2パネル・B3パネル・配色カード・ガラス額

<参考副教材>

『美術—表現と技法』（日本文教出版）

『デザインの色彩』（日本色彩研究所）

<年間計画>

月	週	
4	1	高校美術 I 「表現の多様性について—自己紹介」
	2	メッセージの表現①（雑誌を利用したコラージュによる表現）
	3	コラージュ制作の意義と技法 素材を集める
5	4	制作
	5	仕上げ ※コラージュ作品提出
	6	造形表現の意義と視覚作用（色と形の世界—補色残像・明滅他） ※残像カード提出
7		前期中間考査
6	8	サンドブラスト法によるガラス工芸 道具と技法の確認
	9	技法の特徴を再確認・図柄を決定し転写 カutting
	10	cutting
	11	ブラストと彩色（仕上げ） ※サンドブラスト作品提出
	12	パネルの水張り（B3パネル） 鑑賞（西洋・東洋の肖像画）
13		前期期末考査
7	14	人を見つめる（素描—鉛筆による陰影と調子） 鉛筆の削り方と使い方・グレイスケール
	15	鑑賞課題 配信
8	夏季休業 ※鑑賞課題	
	16	ペーパークラフト（建築的見地から発想—1枚の紙から） 鑑賞課題 提出
9	17	造形要素の理解と制作の基本技法
	18	基本技法の実践
	19	構想と制作
	20	仕上げ ※ペーパークラフト作品提出
	21	パネルの水張り（B2パネル）
10	22	メッセージの表現②（言葉の印象と写真を結び付けたビジュアル表現）
	23	言葉からイメージする表現の検討と資料の活用法について
	24	アイデアスケッチ・表現技法 の工夫（描法や材料） から全体計画へ
11	25	制作
	26	制作
	27 後期中間考査	
	28	制作
	29	進捗の確認とテーマの再確認（1月に続く）
12	30	ガラス絵
	31	造形要素の理解と制作の基本技法
	32	仕上げ ※ガラス絵作品提出
1	33	メッセージの表現②（言葉の印象と写真を結び付けたビジュアル表現）（11月の続き）
	34	仕上げ B2作品の提出
	35	生活に役立つ物のデザイン（レザークラフト）
2	36	素材と技法について
	37	図案の決定と裁断
	38	制作
	39	制作
3	40 学年末考査	
	41	仕上げ ※レザー作品提出
	42	高校美術 I のまとめ

芸術科	書道 I	2 単位
第 1 学年	特進Gコース	

<授業目標>

- (1) 漢字と仮名の書について、古典作品を中心に臨書することで、表現と鑑賞の基礎的な能力を育てる。
- (2) 創作の授業では日本古来の風物詩や古典文学にも触れ、感性を育てる。
- (3) 習得した書の表現力を生かしてさまざまな表現方法に取り組み、書に対する興味・関心を喚起する。また個性豊かな表現も身につける。
- (4) 探求的な態度を持って年間を通じ探求学習を行い、書に関心を持ってもらう。

<授業内容>

- (1) 漢字と仮名の書については古典作品の臨書及び古典の書風を活かした創作に取り組む。
- (2) 漢字仮名交じりの書については実用的な表現や、自由な発想に基づいた表現に取り組む。
- (3) 篆刻は姓名印を彫る。
- (4) 和紙やうちわなど、日本文化を意識した素材を使って創作する。

<授業方法>

- (1) 臨書学習を中心とし、それぞれの古典作品の特徴をとらえて表現できるようにする。
- (2) 臨書学習を生かして創作に取り組むことにより、創作の手順を身につける。
- (3) 漢字仮名交じりの書では、言葉や思いを伝えられるよう表現を工夫して書く。
- (4) 篆刻では、姓名印の制作を通して制作の手順を知る。

<課外や他の授業との関連>

- (1) 受験などの必要に応じて、課外授業を実施する。

<留意点>

- (1) 筆・墨・紙・教材は授業で使用するのに適切なものを教科側で用意し、それを購入する。

<成績評価>

- ・書の表現の方法や形式、多様性などを理解し、表現するための基礎的な技能を身につけ、表しているか。(知識・技能)
 - ・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫しているか。(思考・判断・表現)
 - ・主体的に、書の表現や鑑賞の活動など幅広い活動に取り組んでいるか。
(主体的に学習に取り組む態度)
- この三観点で評価します。

<使用教科書>

教材名	書名	発行所
教科書	書 I	光村図書

<使用教材等>

- (1) 大筆・小筆・筆巻・墨以外の書道用具一式及び半紙・色紙・半切等の紙類
- (2) 篆刻用具用材一式
- (3) 創作のための道具、用紙類

<使用副教材>

- ・手本蘭亭序

<参考副教材>

- ・字典類 (五体字類・書道字典・漢和辞典等)
- ・書道資料集 ・法帖類

<年間計画>

月	週	
4	1	
	2	書道入門 用具・用材論, 基本的な運筆法を学ぶ。
	3	
5	4	楷書 九成宮醜泉銘・孔子廟堂碑・牛欄造像記など,
	5	↓ 古典作品の鑑賞, 臨書を通して書道の基本を学び,
	6	正しい字や筆遣いを身につける。
	7	前期中間考查
6	8	↓
	9	
	10	↓
	11	楷書による創作 生活の中の書に興味を持たせるため, 夏の風物詩のうちわに字を書き,
	12	ちぎり絵も行ない個性的な作品に仕上げる。
7	13	前期期末考查
	14	↓
	15	↓ 課題配信
8		夏季休業 ※鑑賞課題
	16	鑑賞課題 提出
9	17	行書 行書に親しむため, 基礎知識や書き方をまず硬筆から学ぶ。
	18	↓ 古典作品を観賞・臨書し, 基本の筆遣いや字形などを学ぶ。
	19	
	20	
	21	
10	22	蘭亭序 蘭亭序の一部分を臨書する。
	23	
	24	
	25	色紙に創作する。
11	26	↓
	27	後期中間考查
	28	篆刻 自分の名前の篆書体を調べる。印稿を作る。
	29	
	30	2.5 cm四方の石材に篆書体で布字し, 印刀で彫る。
12	31	
	32	
	33	↓ 印影の提出・他の生徒の印も鑑賞する。
1	34	漢字かな交じりの書 漢字と仮名の調和の取れた字を学ぶ。
	35	↓ 書体や筆遣い, 紙面構成に工夫し, 自分の思考や感動を表現し
	36	創作 創作する。
2	37	↓
	38	創作 これまで学んできた楷書・行書・漢字かな交じりの書を応用し,
	39	表現する。これらをカレンダーの形に仕上げる。
3	40	学年末考查
	41	
	42	一年間のまとめ これまで提出した作品をまとめ, 綴じる。

英語科	英語コミュニケーション I	4 単位
1 学年	特進Gコース	

<授業目標>

1. 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。
2. 様々な題材の文章を読み、文化、風土、習慣など広く海外の見聞を広める。
3. 国公立大学、難関私立大学入試に対応できる基礎力を身に付ける。
4. 模擬試験における偏差値60以上を目標とする。また、英検2級取得を目指す。

<授業内容>

1. 直接的に英文を読めるようにスラッシュリーディング、パラグラフリーディングを中心に展開する。
2. 語学学習の基本として、「読むこと」と「反復練習」の重要性を十分に理解させ、予習、授業、復習を基本に、学習習慣を確立する。
3. 情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践できるように、具体的な言語の使用場面を設定して言語活動を英語で行う。
4. 小テストにより語彙力の定着を図る。
5. 教科書学習の他に、レベルに合わせた長文応用問題演習を行う。

<使用教材>

教材名	書名	出版社
教科書	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION I	東京書籍
副教材	Change the World Basic	いっずな書店
	システム英単語 Basic<5 訂版>	駿台文庫
	進研 WINSTEP 英語リスニング 1	ラーズ

<成績評価>

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[知識]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法事項を理解し、適切に使用することができる。 ・場面や用途に応じた適切な表現方法を知っている。 	<p>[技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意味の区切りを意識し、相手が理解しやすいように音読することができる。 ・本文の内容を、学習事項を用いて英文で再現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容に関して、感想や意見を伝え合うことができる。 ・本文の内容についての質問に英語で答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英文の内容に関心を持ち、主体的に理解することができる。 ・周囲と主体的に英語で意見交換をすることができる。

<3年間の履修展開>

1 年次：英語コミュニケーション I、 論理・表現 I
↓
2 年次：英語コミュニケーション II、 論理・表現 II
↓
3 年次：英語コミュニケーション III、 論理・表現 II

<探求学習> 随時実施予定

<年間計画>

月	週	学習内容
4	1	Introduction
	2	Unit1 What can happen in one second?
	3	Unit1 What can happen in one second?
5	4	長文読解演習
	5	Unit2 What do superstitions mean to you?
	6	Unit2 What do superstitions mean to you?
	7	前期中間考查
	8	Speaking Review Task (Unit1, Unit2)
6	9	長文読解演習
	10	Unit3 How can we promote sustainability
	11	Unit3 How can we promote sustainability
	12	長文読解演習
7	13	前期期末考查
	14	Optional Reading 1 Amelia Bedelia
	15	Optional Reading 1 Amelia Bedelia
8	夏季休業	
	16	Unit4 What can we learn from native Hawaiians?
9	17	Unit4 What can we learn from native Hawaiians?
	18	Speaking Review Task (Unit3, Unit4)
	19	長文読解演習
	20	Unit5 Why do people tell each other stories?
10	21	Unit5 Why do people tell each other stories?
	22	長文読解演習
	23	Unit6 What are the qualities of a good leader?
	24	Unit6 What are the qualities of a good leader?
11	25	Speakin Review Task (Unit5, Unit6)
	26	長文読解演習
	27	長文読解演習
	28	後期中間考查
	29	長文読解演習
12	30	Unit7 Where will you live in the future?
	31	Unit7 Where will you live in the future?
	32	長文読解演習
	冬季休業	
1	33	Unit8 How do cultures and traditions affect teens' lives?
	34	Unit8 How do cultures and traditions affect teens' lives?
	35	Speaking Review Task (Unit7, Unit8)
	36	長文読解演習
2	37	Optional Reading 2 Information Please
	38	Optional Reading 2 Information Please
	39	長文読解演習
3	40	学年末考查
	41	文法の総復習
	42	文法の総復習

英語科	論理・表現 I	2 単位
1 学年	特進Gコース	

<授業目標>

- 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。
- 様々な題材の文章を読み、文化、風土、習慣など広く海外の見聞を広める。
- 国公立大学、難関私立大学入試に対応できる基礎力を身に付ける。
- 模擬試験における偏差値60以上を目標とする。また、英検2級取得を目指す。

<授業内容>

- 教科書に沿って、毎時間各章ごとに基本的な文法事項を学習し、それぞれの項目について、練習、確認を徹底的に繰り返す。
- 具体的な言語の使用場面を設定し、「話すこと」と「書くこと」に重点を置いた言語活動を英語で行う。
- 大学入試に出題された問題を使い、入試の実践的な知識を深める。
- 前回の授業内容や、副教材を使った小テストを行い、基礎力の定着を図る。

<使用教材>

教材名	書名	出版社
教科書	APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION I	開隆堂
副教材	Breakthrough Upgraded English Grammar in 36 Lesson	美誠社
	Breakthrough 総合英語	美誠社

<成績評価>

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[知識]</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々なトピックの内容を理解することができる。 それぞれのページで学んだ文法を理解している。 学習した文法を理解し、知識として定着している。 	<p>[技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学んだ文法を使って文章を書くことができる。 パラグラフの構成に基づき文章を書くことができる。 例文を英語らしい発音で発話することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだ文法を活用し、テーマに沿ってプレゼンテーションができる。 クラスメイトの意見を理解し、それに対して意見を返すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話に関心を持ち、聞き、発話しようとしている。 間違いを恐れず、主体的に表現しようとしている。 主体的にコミュニケーションをはかろうとしている。

<3年間の履修展開>

1年次：英語コミュニケーションⅠ、 論理・表現Ⅰ
↓
2年次：英語コミュニケーションⅡ、 論理・表現Ⅱ
↓
3年次：英語コミュニケーションⅢ、 論理・表現Ⅱ

<年間計画>

月	週	学習内容
4	1	Lesson1 My Hero 現在と過去を表す表現
	2	Lesson1 My Hero 現在と過去を表す表現
	3	Lesson2 Weather Forecast for Tomorrow? 未来を表す表現
5	4	Lesson2 Weather Forecast for Tomorrow? 未来を表す表現
	5	Lesson2 Weather Forecast for Tomorrow? 未来を表す表現
	6	Skill Up Paragraph Writing 1 パラグラフの構成
	7	前期中間考査
6	8	Lesson3 Tips on Visiting a Japanese Temple 助動詞
	9	Lesson3 Tips on Visiting a Japanese Temple 助動詞
	10	Lesson4 The Key to Learn Kanji 完了形
	11	Lesson4 The Key to Learn Kanji 完了形
7	12	Skill Up Presentation 1 マインドマップ作成
	13	前期期末考査
	14	Lesson5 Home-Made Bread 受動態
8	15	Lesson5 Home-Made Bread 受動態
	夏季休業	
9	16	Lesson6 Guinness World Records 比較級・最上級
	17	Lesson6 Guinness World Records 比較級・最上級
	18	Lesson7 Japanese Bentos Are Cool! 同等比較・倍数比較
	19	Lesson7 Japanese Bentos Are Cool! 同等比較・倍数比較
10	20	Skill Up Debate 1 ミニディベート プレーンストーミング
	21	Lesson8 Ready for Disaster 動名詞・to 不定詞 (名詞的用法)
	22	Lesson8 Ready for Disaster 動名詞・to 不定詞 (名詞的用法)
	23	Lesson9 Useful Ads on the Internet to 不定詞 (形容詞的用法・副詞的用法)
11	24	Lesson9 Useful Ads on the Internet to 不定詞 (形容詞的用法・副詞的用法)
	25	Skill Up Paragraph Writing 2 ディスコースマーカー
	26	Lesson10 Who's the Girl Walking with You? 分詞
	27	Lesson10 Who's the Girl Walking with You? 分詞
	28	後期中間考査
12	29	Lesson11 Going on a Factory Tour! 関係代名詞
	30	Lesson11 Going on a Factory Tour! 関係代名詞
	31	Lesson12 A Sightseeing Spot to Recommend 関係副詞
	32	Lesson12 A Sightseeing Spot to Recommend 関係副詞
冬季休業		
1	33	Skill Up Presentation 2 プレゼンテーション発表
	34	Lesson13 If I Were Good at Cooking 仮定法
	35	Lesson13 If I Were Good at Cooking 仮定法
	36	Lesson14 The Best Place for the Holiday 接続詞
2	37	Lesson14 The Best Place for the Holiday 接続詞
	38	Skill Up Debate 2 ピンポンディベート
	39	文法のまとめ①② 時制・助動詞
3	40	学年末考査
	41	文法のまとめ③④ 比較級・最上級・動名詞・to 不定詞
	42	文法のまとめ⑤⑥ 関係詞・仮定法

情報	情報 I	2単位
1学年	特進Gコース	

【学習目標】 ※【 】内は3観点

- (1) 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識と技能を身に付け、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。 【知識・技能】
- (2) 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用している。 【思考・判断・表現】
- (3) 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報及び情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

【学習内容】

- (1) 効果的なコミュニケーションを実現するために必要な情報デザイン、コンピュータを活用するために必要な情報が処理される仕組み、データを活用するために必要な収集、整理、分析の方法、プログラム、モデル化とシミュレーション、ネットワーク、データベースなどについて理解し、技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについては、情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報と情報技術の理解と併せて身に付ける
- (2) 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、コミュニケーションの手段、コンピュータ、ネットワーク、データ及びデータベースなどの活用を通して、情報社会などの問題の発見・解決に向けて、試行錯誤と振り返り及び改善を行い、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- (3) は、情報と情報技術を適切に活用することで、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い、これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで情報社会に主体的に参画する態度を養う。

【成績評価】 ※評定は各学期に行い、学年末に総合評定をする。

- 成績評価は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点をそれぞれA～Cの3段階の観点別評価で総合的に評価し、5段階に評定をする。

【知識・技能】…定期考査や授業内でのソフトウェアスキル等
【思考・判断・表現】…データ分析や情報デザイン、プログラミングでの表現等
【主体的に学習に取り組む態度】…授業態度や課題への取り組み・工夫、提出物等

【使用教材】

教材名	書名	発行所
教科書	情報 I	開隆堂
副教材	情報 I サブノート	開隆堂
	ライフイズテックレッスン	ライフイズテック

【年間計画】

月	週	学習内容・単元
4	1	1章 情報の表現～情報や情報技術を使ってみよう～
	2	1節 情報機器を使うために必要なこと
	3	①身の回りの情報機器と学校でのルール ②快適で安全な使い方
5	4	2節 情報を伝えてみよう
	5	①伝えたいテーマを考えよう ②情報を収集しよう ③収集した情報を整理しよう
	6	④情報を処理・加工して表現しよう①（文字や数値，画像などの表現）
	7	⑤情報を処理・加工して表現しよう②（色に配慮した表現） ⑥制作をふり返ろう
	8	3節 情報伝達をふり返ってみよう ①コミュニケーションと情報デザイン①わかりやすい表現 ②情報デザインの構成要素
6	9	2章 コミュニケーション～情報や情報技術を利用しよう～
	10	1節 コミュニケーションに必要なこと
	11	2節 情報を利用した探究活動をしよう
	12	①問題解決の手段と考え方 ②問題を発見し課題を設定しよう
7	13	前期期末考査
	14	③課題の解決に向けて計画を立てよう ④活動しよう①（情報の活用）
	15	⑤活動しよう②（表現方法） ⑥発表し，評価しよう
8	夏季休業	
	16	3節 探究活動をふり返ろう ①メディアやコミュニケーション手段の種類 ②権利と法
9	17	3章 モデル化とシミュレーション，プログラミング～情報や情報技術を活用しよう
	18	1節 情報を処理するしくみを知ろう
	19	①ハードウェア ②コンピュータの内部処 ③ソフトウェア
10	20	2節 モデル化とシミュレーション
	21	①モデルの役割 ②ものごとをモデル化しよう ③シミュレーションの役割
	22	④シミュレーションをしてみよう ⑤不確実な現象をシミュレーションしよう
	23	⑥モデル化とシミュレーションの活用
11	24	3節 プログラミングをしてみよう
	25	①プログラムによる処理 ②処理手順の基本構造 ③プログラミング言語
	26	④プログラミングの手順 ⑤プログラムの評価 ⑥プログラムとアルゴリズム①（並べかえ）
	27	⑦プログラムとアルゴリズム②（探索） ⑧プログラミングの活用
	28	
12	29	4節 情報を処理するしくみについて深めよう
	30	①文字情報を処理するしくみ ②音声情報を処理するしくみ
	31	③画像情報を処理するしくみ① ④画像情報を処理するしくみ②
	32	⑤デジタル化による情報の特徴
		冬季休業
1	33	4章 情報通信ネットワークとデータサイエンス～情報や情報技術を深めよう
	34	1節 情報通信ネットワークと情報システムのしくみを知ろう
	35	2節 情報の安全を守るしくみを知ろう
	36	3節 データを活用してみよう
2	37	①データの収集 ②データの蓄積と処理 ③量的データと質的データ ④量的データの表現
	38	⑤量的データの分析 ⑥質的データの整理・分析 ⑦データの活用
	39	
3	40	学年末考査
	41	終章 未来を考えよう
	42	情報社会のこれからを考えよう ※情報 I の総集